

地域創生の成功モデルでは？

8年間のグリーンツーリズムと家族旅行村の相乗効果を何故無視する

A) 疑問点

8年前宇佐市行政より、そして議会からグリーンツーリズム(以下GT)支援というシンボリックにも旅行村を指定管理に委託され、現在に至っています。実際助けられて、今があります。今回公募があり、9年目からは別の業者が候補者に選定されましたが、8年間の好実績がある者からすると納得しかねます。疑問点は以下の通りです。

- ①何故、8年間の実績と現状を無視した選考を行ったのか。
- ②8年間の実績がある団体と、机上で考えた団体を同じ採点比で決めるのか。
- ③10月20日の審査中に「一人で突っ走るのか」との発言をするような方がいた事、特に点数の低い採点をした人がいた事に疑問を抱き、これは不公平である。
- ④行政との連携の不備の指摘について、GTは平成12年より、教育旅行については行政担当者と共同で先生の案内や歓迎式等において行政側からの挨拶が行われていたが、この2~3年、基本拒否されている。
この9月、公募の申込前にGTは年内に旅行村にある事務局を移転するように指導があったが、市との連携はパンフレットに載せてあり、市の方針が変わったのだろうか。

B) 現指定管理者の実績と現状

	行政の運営時代		この7年間の平均数値
宿泊の稼働率	3%	→	平均16.5%に
旅行村の売上	2,200万円	→	平均3,200万円に
市からの助成金	1,500万円	→	平均1,030万円に

- ①旅行村利用者8~9万人の内2割はGT関係者である。
- ②村内キャンプ場にて360名が同時にバーベキュー出来る、修学旅行プログラムがあるが存続の不安がある。
- ③通算10年、旅行村内にGTありと全国発信し、旅行村の宣伝に貢献している。
- ④8年前は旧役場幹部の人から「何故負の遺産を受けたか」と言われるような、旅行村でした。

C) グリーンツーリズムの実績と現状

宇佐市安心院町は日本におけるGT発祥の地であり、全国初のGT推進の町で、この事は全国そして海外まで広がっています。

- ①宇佐市内に約70軒の受入家庭で年間延べ人数約1万人の受入を行っている。
- ②年間197団体が訪れている。(H25年度実績)
- ③経済効果1億5,000万円(行政発表)
- ④旧安心院町から新宇佐市より、「GT推進宣言」のおかげで、国の農水省は今でも名指しで安心院GTを応援してくれている。
- ⑤安心院GTは苦しい時もあったが、おかげで不安定ながら、成長産業になっている。

D) 希望

今回応募された、他2社に異議を申し立てる訳ではなく、宇佐市当局に申し上げます。

この8年間、GTと家族旅行村は相乗効果で実績を伸ばしてきました。この実績と現状を無視するような、候補者選定の白紙撤回を市長に求め、市議会には否決を求めています。市民の皆様、ご支援宜しくお願い申し上げます。合併前の旧安心院町の人口8,200人は、現在6,500人になっています。過疎化が急激に進む中、お母さん達は手をしっかりつなぎ、その頑張っているお母さん達が心から怒っています。全国注視の中、玄関正面の大きな看板、GT推進宣言に恥じない政策的判断を、宜しくお願い申し上げます。

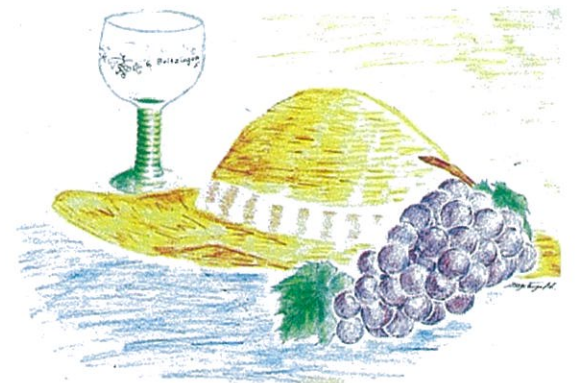
平成26年12月8日

NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会・(株)安心院長期休暇研究連合会

代表 宮田 静一



石田 篤蔵	本多 雅子	赤 永 玲子	奥城 朝恵子
吉忠 良富男	江藤 嵩子	時 枝 仁子	加東 文子
望月 陽子	夏田 清子	中山 ミヤ子	岩野 総子
田口 孝子	飯木 テミ	安部 恭美	梶谷 保子



※GT受入家庭、安心院・院内・宇佐・長洲地区、代表のお母さん達の署名 ※お客様を含めて全国的な署名活動を予定しております。

【第6回大分・安心院スローフード感謝祭の中止につきまして】

スローフード感謝祭は家族旅行村と協力しながら運営していました。現在の状況ではお客様へ迷惑をおかけする可能性が高くなるため、残念ですが、今年度の開催は中止に致します。何卒ご理解の程宜しくお願い致します。